

教皇庁典礼秘跡省

一般ローマ暦におけるコルカタの聖テレサ

2024年12月24日、教皇フランシスコが聖ペトロ大聖堂の扉を開け、希望の聖年の始まりを告げた日に、典礼秘跡省は教皇の名のもとで教令(Prot. N. 703/24)を発表しました。この教令によって、コルカタの聖テレサおとめの祝祭が、一般ローマ暦の9月5日に任意の記念日として記載されることとなりました。

今回の記載は、司教や修道者、そして信者の団体からの請願に応え、またコルカタの聖テレサの靈性が世界中に与えた影響を考慮して、教皇が望まれたことでした。教皇は彼女を、人生において見捨てられた人たちにとって希望のすぐれた証人として提示したいと願っておられました。

本教令とともに、ミサと時課の典礼、さらに「ローマ殉教録」の祝祭のために、すべての典礼暦と典礼書に追加すべき要素がラテン語で提示されています。

今後、この祝祭のためのこれらの典礼式文を翻訳し、認可し、当省の認証を得て公表する責任は、現行の規定に従い、各司教協議会にゆだねられています(自発形式による使徒的書簡「マニユム・プリンチピウム」参照)

コルカタの聖テレサの列聖式が行われた感謝の祭儀(2016年9月4日)の説教の中で、教皇フランシスコは、彼女を神のいくしみの伝達者として示しました。そのいくしみは、あらゆるものに味わいを与える「塩」のように、そして闇を照らす「光」のように、彼女が成し遂げたすべてのことを貫いていました。

したがって、このもっとも小さな者たちのしもべは善いサマリア人の真の姿です。「都市の周辺部と、実存的辺境に対して彼女が行った宣教」は、教皇が説教の中で述べたように、「神が極限の貧困にあえぐ人々に寄り添っておられることを雄弁に物語るあかしとして、今の時代にも生き続けています」。

この祝祭の典礼式文の中で、集会祈願は彼女の靈性の核心を示しています。すなわち、十字架上のイエス・キリストの渴きを満たすために、もっとも困窮した人たちの必要に愛をもって応えようという呼びかけです。そのため、わたしたちは父である神に願い求め、彼女の模範に従って、苦しむ兄弟姉妹のうちに現存するキリストに仕えることができるよう祈ります。

聖書朗読では、第一朗読はイザヤ書からのテキストで、神に喜ばれる断食について語られています(イザヤ 58:6-11 参照)。続いて詩編 34「どのようなときも、わたしは主をたたえる」が唱えられます。

幼子のような者たちにみ国の神祕が明かされることを強調するアレルヤ唱(マタイ 11:25 参照)に続く福音は、聖マタイによる福音書の美しいテキストを含んでいます。いくしみの行いを列挙した後、マザー・テレサの生涯によって見事に生きられた次のことが記され

ています。「わたしの兄弟であるこのもっとも小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」(マタイ 25:40)。

時課の典礼に関しては、聖人の事績に関する記録に続く「読書」の第二朗読は、彼女が 1960 年にジョゼフ・ノイナー神父に宛てて書いた手紙の一部です。彼女は自らの心を開き、長年にわたって生きた神の不在という闇を明らかにしますが、彼女はそれを喜んで神にささげました。彼女は、この試練を信仰をもって耐え忍び、多くの魂が照らされるよう願ったのです。

典礼式文は、「ローマ殉教録」の賛辞で締めくくられます。彼女は現在では、「ローマ殉教録」の 9 月 5 日の祝祭の最初に置かれています。

この祝祭が一般ローマ暦に加えられたことにより、希望の灯台であるこの女性が、小柄でありながらも愛においては偉大であり、すべての人のいのちを守り、母の胎内においてさえも見放され、見捨てられ、軽んじられた人々を守るために、つつしみ深い奉仕の気高さと栄誉をあかしししたことを思い巡らす助けとなりますように。

典礼秘跡省長官 アーサー・ローチ枢機卿